

光学向けに新規オリゴマーを開発

大成ファインケミカル

ポリマー重合技術による樹脂開発を得意とする大成ファインケミカル。昨年末に光学フィルム向けハードコート用オリゴマーの販売を開始し、ハードコート分野への展開を本格化させている。

加飾分野から光学分野まで対象領域の広いハードコート分野だが、技術要求は高度化する一方、コスト要求は熾烈を極める。グローバル競争に晒される需要家にとって、いかにして技術革新を図りつつ、生産性向上を図るかがテーマ。「コーティングにおいても、一層の薄膜化、高機能化が求められている」(担当者)と話す。

しかし、薄膜化といっても要求硬度を確保しながら、透明性、柔軟性を両立するのは至難の業。現在、ウレタンアクリレートとの組み合わせによる樹脂設計が主流だが、硬化収縮や密着不良などの課題も指摘されている。

そこで同社が開発したのが、UV硬化型ウレタンアクリレートオリゴマー「8UX-015A」。

独自の素材選択と合成技術を用いることで、硬化収縮による密着不良や反り変形を抑え、かつ表面硬度、耐擦傷性を保持。また樹脂コンテンツの高さから、他のアクリレート及び希釈剤との組み合わせにおける幅広いコーティング設計を可能とする。

同社では、UV硬化型アクリルポリマー「8KXシリーズ」を展開しており、個別ニーズに対応するカスタマイズ力を武器にハードコート市場での成長を見据えている。